

学校教育目標	たしかな学び あたたかい心 すこやかな体 ゆたかなかわり合い
目指す学校像	あいさつと笑顔があふれる、信頼と潤いのある学校
重点目標	1 学ぶ喜びのある生き生きとした学校 (「自立した学び」の育成、ICT教育の充実) 2 安心して通える、対話ができる学校 (心のサポート体制の充実、不登校児童への対応の充実) 3 家庭や地域とところが通い合う学校 (コミュニティ・スクールの推進) 4 安全で落ち着きのある、美しい学校 (安全教育の充実、安全管理の徹底) 5 児童の学びを支援する教職員が集う学校 (わかる授業、学び続ける教師、研修の充実)

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標				年度評価			実施日 令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	○全国学力・学習状況調査やさいたま市学習状況調査の結果をみると、どの教科も全国・市の平均正答率と同程度の平均正答率であり、概ね良好である。 ○落ち着いて学習に取り組み、しっかりと話を聴いて授業に取り組むことができる。(課題) ○令和6年度市学習状況調査において、3年生、5年生、6年生の「書くこと」が市の平均正答率より下回った。算数の「データ活用」で5年生が4P、6年生が5P下回った。	・個別最適な学びや協働的な学びを軸とした主体的な学びの展開 ・教育DXを展開し、児童のデータ活用を重要視した授業の実践	・「学びのじ・し・や・く」に示されたアクティブラーニングの学習を展開し、自走できる児童を育成する。 ・自分の学力をデータで確認しながら学びに取り組む姿勢を確立するため、データ活用の力を育成する。	① 学びの指標「主体的な学び」の学校平均数値が3.3を超えたか。(昨年度3.2) ①市学習状況調査(生活習慣)「コンピュータを活用して情報を集めて整理したり、分析したり、まとめたりすることができた」が市の平均以上となったか。	・学びの指標における「主体的な学び」の学校平均値は3.4となり、目標とした3.3を上回った。児童が課題に対して自ら考え、友達と意見を交流しながら学習を進める姿が多く見られた。 ・ICT端末を活用した学習場面が増加した。市平均と同程度(または市平均以上)となり、一定の成果が見られた。	A	・次年度は、評価規準を意識した「書く活動」や「説明する活動」を各教科で計画的に位置付けるとともに、ICTを活用して考えを可視化・共有し、振り返る学習過程を一層充実させる。 ・校内研修において実践事例の共有を継続し、データ活用の指導場面や評価方法について教職員間での共通理解を深めることで、授業の質の向上を図る。	・ICTを使用した学習については、教科のねらいを明確にする必要がある。ICTはあくまでもねらいを達成するための道具である。 ・特定の先生に負担がいかないように配慮してほしい。 ・情報リテラシーについて、保護者も含めて指導してほしい。
2	○令和6年度市学力学習状況調査(生活調査)「いじめはいけないこと」の肯定的回答は市の平均を超えた。 ○令和7年度に入り、不登校傾向にある児童の出席率が昨年度より向上している傾向にある。(課題) ○長欠児童がおり、保護者との連絡がなかなかつながらない家庭がある。 ○配慮を要する児童への組織的な対応が必要である。	・学校運営協議会を中心とした連携強化 ・社会に開かれた教育課程を実践する教育活動の発信	・学校運営協議会を3回開催し、学校・地域・保護者がそれぞれの立場で何ができるのか実効性のある熟議を実施する。 ・学校だより、学校HPにて学校経営状況や方針、地域の考えや活動について積極的に発信し、児童の実態などの情報も合わせて保護者や地域と情報を共有する。	①学校運営協議会を3回実施したか。 ②学校評価「家庭や地域と心が通い合う学校づくり」の肯定的評価90%以上の維持 ①学校HPにおいて年間10回以上学校経営や学年経営、保健領域、給食領域に関する情報を発信できたか。	・学校運営協議会を年間3回開催し、実効性のある熟議を行うことができた。 ・肯定的評価が95%以上を維持しており、家庭・地域との信頼関係が継続して築かれていることがうかがえる。 ・情報発信を年間10回以上行い、学校の教育活動や児童の実態について、保護者や地域と継続的な情報共有を図ることができた。	A	・学校運営協議会での熟議の内容や学校からの情報発信が、すべての家庭や地域に十分に浸透しているとは言えず、発信の方法や内容についてさらなる工夫が必要である。 ・情報発信を通して、地域との協働による学習活動や学校教育への参画につながる取組を計画的に進め、学校運営協議会を中心とした持続可能な地域連携の充実を図る。	・学校からの情報の受け取りについて自治会でも紙媒体の配付ではなくHP閲覧による方法に協力している。 ・PTAでは、アプリの利用により配信していきたい。 ・地域・家庭・学校の連携を図るには顔見知りの関係になることが大切である。
3	○地域全体で児童を育成するために学校・地域・保護者が連携し、学校運営協議会の会議や熟議を通して、「学校を軸としたあいさつが響き合う家庭・地域づくり」に取り組んでいる。 ○学校評価「家庭や地域と心が通い合う学校づくり」に対する肯定的評価は95%と高い数値であった。(課題) ○地域の行事への参加意欲は高まっているが地域貢献の意識については不十分な点も見られる。	・教職員の授業力向上や生徒指導の充実を目指す主体的な校内研修の実施 ・教師個人のキャリアアップをめざす、個人の研修の支援	・校長、教頭による教職員の授業参観を実施し、教職員に指導助言を行う。 ・校内研修の機会を利用し、児童の実態に応じた基礎学力の向上や学習規律の構築についての研修を行う。 ・全国教員研修プラットフォームを活用した研修奨励を行い、個々の教職員が自らの課題を意識した授業研究を年間3本以上実施する。	①学校評価「基礎学力を身に付けさせる指導」に関する肯定的評価90%以上の維持。 ①研修や指導訪問等の機会を利用し、授業研究を3本以上実施できたか。	・「基礎学力を身に付けさせる指導」に関する保護者の肯定的評価は92%、「自分の考えをもち、自分のことばで正しく表現する力の指導」の肯定的評価は96%と向上した。 ・授業研究を3本以上実施することができた。管理職による授業参観と指導助言、校内研修での学びを通して、教職員が授業改善や生徒指導の充実に向けた主体的に取り組む姿が見られ、専門性の向上につながったと評価できる。	A	・教職員の経験年数等により、校内研修や個人研修の成果に差が見られる場面があった。また、個々の授業研究や研修で得た成果が校内全体で十分に共有されておらず、学校全体としての授業力向上や生徒指導の充実につなげきれない点も課題である。 ・授業改善の視点をより明確にした校内研修を計画的に実施する。併せて、年次研修や個人研修、授業研究の成果を校内研修等で共有する仕組みを整え、教職員相互の学び合いを促進する。	・人事配置のバランスが崩れないよう、教職員人事課に意図的に要望していくことが必要である。 ・経験の浅い教職員への指導ができる教員(中堅教諭)を育成するとよい。
4	○令和6年度市学力学習状況調査(生活調査)「いじめはいけないこと」の肯定的回答は市の平均を超えた。 ○令和7年度に入り、不登校傾向にある児童の出席率が昨年度より向上している傾向にある。(課題) ○長欠児童がおり、保護者との連絡がなかなかつながらない家庭がある。 ○配慮を要する児童への組織的な対応が必要である。	・学校運営協議会を中心とした連携強化 ・社会に開かれた教育課程を実践する教育活動の発信	・学校運営協議会を3回開催し、学校・地域・保護者がそれぞれの立場で何ができるのか実効性のある熟議を実施する。 ・学校だより、学校HPにて学校経営状況や方針、地域の考えや活動について積極的に発信し、児童の実態などの情報も合わせて保護者や地域と情報を共有する。	①学校運営協議会を3回実施したか。 ②学校評価「家庭や地域と心が通い合う学校づくり」の肯定的評価90%以上の維持 ①学校HPにおいて年間10回以上学校経営や学年経営、保健領域、給食領域に関する情報を発信できたか。	・学校運営協議会を年間3回開催し、実効性のある熟議を行うことができた。 ・肯定的評価が95%以上を維持しており、家庭・地域との信頼関係が継続して築かれていることがうかがえる。 ・情報発信を年間10回以上行い、学校の教育活動や児童の実態について、保護者や地域と継続的な情報共有を図ることができた。	A	・学校運営協議会での熟議の内容や学校からの情報発信が、すべての家庭や地域に十分に浸透しているとは言えず、発信の方法や内容についてさらなる工夫が必要である。 ・情報発信を通して、地域との協働による学習活動や学校教育への参画につながる取組を計画的に進め、学校運営協議会を中心とした持続可能な地域連携の充実を図る。	・学校からの情報の受け取りについて自治会でも紙媒体の配付ではなくHP閲覧による方法に協力している。 ・PTAでは、アプリの利用により配信していきたい。 ・地域・家庭・学校の連携を図るには顔見知りの関係になることが大切である。
5	○学校評価「基礎学力を身に付けさせる指導」については保護者の肯定的評価91%「自分の考えをもち、自分のことばで正しく表現する力の指導」の肯定的評価は90%であった。 ○令和6年度市学習状況調査生活調査項目「先生に質問することができるか」では80~90%と高評価であった。(課題) ○教職員個人の課題を達成するための研修方法や研修時間の確保が不十分である。	・教職員の授業力向上や生徒指導の充実を目指す主体的な校内研修の実施 ・教師個人のキャリアアップをめざす、個人の研修の支援	・校長、教頭による教職員の授業参観を実施し、教職員に指導助言を行う。 ・校内研修の機会を利用し、児童の実態に応じた基礎学力の向上や学習規律の構築についての研修を行う。 ・全国教員研修プラットフォームを活用した研修奨励を行い、個々の教職員が自らの課題を意識した授業研究を年間3本以上実施する。	①学校評価「基礎学力を身に付けさせる指導」に関する肯定的評価90%以上の維持。 ①研修や指導訪問等の機会を利用し、授業研究を3本以上実施できたか。	・「基礎学力を身に付けさせる指導」に関する保護者の肯定的評価は92%、「自分の考えをもち、自分のことばで正しく表現する力の指導」の肯定的評価は96%と向上した。 ・授業研究を3本以上実施することができた。管理職による授業参観と指導助言、校内研修での学びを通して、教職員が授業改善や生徒指導の充実に向けた主体的に取り組む姿が見られ、専門性の向上につながったと評価できる。	A	・教職員の経験年数等により、校内研修や個人研修の成果に差が見られる場面があった。また、個々の授業研究や研修で得た成果が校内全体で十分に共有されておらず、学校全体としての授業力向上や生徒指導の充実につなげきれない点も課題である。 ・授業改善の視点をより明確にした校内研修を計画的に実施する。併せて、年次研修や個人研修、授業研究の成果を校内研修等で共有する仕組みを整え、教職員相互の学び合いを促進する。	・人事配置のバランスが崩れないよう、教職員人事課に意図的に要望していくことが必要である。 ・経験の浅い教職員への指導ができる教員(中堅教諭)を育成するとよい。